

## 第3回「知の拠点」整備構想検討委員会 議事録概要

1 日時 平成29年11月17日(金)14:00～15:30

2 場所 福知山市役所5階全議員協議会室

### 3 出席者

委 員	柴田洋三郎委員長、奥田省三職務代理(途中退席)、大西利明委員、田中邦明委員、野村賢治委員
策定本部	井口本部員(公立大学法人福知山公立大学理事長兼学長) 森迫本部員(国立大学法人京都工芸繊維大学副学長) 伊東本部員(福知山市副市長) 大槻本部員(福知山市高等教育施策に関する特別顧問)
福知山市	渡辺市長公室長、森田市長公室理事、大西次長、岸本課長補佐、外賀主任、大槻主査、中田囑託

※今井一雄委員、浅田博史委員は欠席

### 4 議題

キャンパス整備計画について

### 5 会議概要

次第	内容
開会挨拶	伊東副市長
【議題】 キャンパス整備計画 について	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「知の拠点」整備構想を策定するにあたっては、ランドデザインを描いた上で年次計画をたてることが重要である。</li> <li>■大学の玄関口をイメージしたキャンパスづくりが必要である。福知山公立大学へのメインストリートを明確に描き、メインストリートを中心としてキャンパスの広がり絵を考えるべきではないか。</li> <li>■初めて大学に行く者でもわかりやすいように案内看板の早期設置を検討すべきではないか。</li> <li>■学生数が増加したとしても自動車通学の学生は限られると思うので、駐車場よりもまずは駐輪場の整備を行うべきではないか。</li> <li>■公共交通を充実し、通学環境を向上させることが重要。</li> <li>■新学部の設置に向けて、1号館と3号館を改修することは妥当。また、3号館の中にラーニング・コモンズの機能を設けることができれば、地域産業との連携も可能。地元企業の職員の研修施設としても活用できるのではないか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■北近畿地域連携センターの中に「知るカフェ」の機能を持たせることができれば、学生と企業との交流の機会が生まれ、インターンシップなど様々な展開が図れるのではないかと。</li> <li>■情報系学部には、最新のハードウェア、高速デジタル通信回線、教職員のプレゼンテーション環境の設置が必要。ただし、情報はすぐに陳腐化するため、適切なタイミングでハードウェア等を導入し、更新していく必要がある。</li> <li>■情報はスピードが大切。また、これらの少子化社会を見据え、少しでも子どもを北近畿地域に留まらせることを考えると、新学部の開設はなるべく早期のほうが良いのではないかと。</li> <li>■地域産業との連携の中に高校との連携も加えてほしい。また、北近畿地域には京都府立農業大学校もあるため、農業のIT化も考えてほしい。地域全体に競争力を持たせるような観点で地域連携の在り方を検討いただきたい。</li> <li>■「産官学」に「金(金融)」を加えてはどうかと考える。学生等宿舎を設置する際には、金融機関に特別な融資制度を設けてもらえるよう市から働きかけてはどうか。</li> <li>■体育館や学生クラブ・サークル室がない状況が続けば、在学生から不満も出てくるだろう。こうしたことが口コミで波及すれば福知山公立大学の学生募集にも影響が生じるのではないかと。</li> <li>■学生クラブ・サークル室を京都工芸繊維大学と一緒に利用できる場所に設けることができれば、学生間交流も盛んになるのではないかと。</li> <li>■体育館よりもトレーニングジムのほうが教職員にとって良いのではないかと。コストパフォーマンスの高い施設を設置するほうが効果的ではないかと考える。</li> <li>■新学部の設置のために1号館を改修すること、そして3号館を取得し改修することについて、賛成するとともに優先順位が高いと考える。</li> <li>■情報系学部の設置に当たっては、単なる情報系学部であると特異性がないため、地域社会と密着する「地域情報学」のような特化した内容のほうが良いのではないかと。</li> </ul>
--	---

## 6 議事録概要

### 【議題】キャンパス整備計画について

- 事務局から【資料】により説明。
- 柴田委員長から今井一雄委員、浅田博史委員の意見を紹介。  
(今井委員意見)
  - 「知の拠点」整備構想を策定するにあたっては、グランドデザインを描いた上で年次計画をたてることが重要である。

- 大学の玄関口をイメージしたキャンパスづくりが必要である。福知山公立大学へのメインストリートを明確に描き、メインストリートを中心としてキャンパスの広がり絵を考えるべきではないか。
- メインストリートの終着点にバスターミナルを設置することでキャンパスの玄関口をイメージしやすくなるのではないか。
- 初めて大学に行く者でもわかりやすいように案内看板の早期設置を検討すべきではないか。
- 学生数が増加したとしても自動車通学の学生は限られると思うので、駐車場よりもまずは駐輪場の整備を行うべきではないか。
- 公共交通を充実し、通学環境を向上させることが重要。家賃に加えて、公共交通運賃も高いとなれば、保護者・学生の経済的負担は大きいため、バス便数を増やすことも重要だが、まずは運賃を下げることを検討すべきではないか。
- 「知の拠点」づくりを進めるのであれば、シンボルとしての入学式・卒業式を行うことができる規模の講堂(ホール)が必要ではないか。

(浅田委員意見)

- 「知の拠点」整備にあたっては、両大学のキャンパス整備だけでなく、地域産業界と連携する工夫をしてほしい。
- キャンパス整備は優先度を考えて計画的に取り組む必要がある。
- 社員が研修を受講可能な施設機能を大学に設けてもらえると嬉しい。
- 情報はスピードが大切であるため、新学部の開設はなるべく早期のほうがいいのではないか。

(委員)

- 策定本部から御提案のあったキャンパス整備計画の実現のためには、かなりの費用が必要になると推察するが、財源についてどのように考えているのか。

(事務局)

- キャンパス整備計画の実現のためには、財源の問題をはじめ、教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想において定める入学定員200人への増加時期、新学部教員の人件費の問題など様々な課題がある。今回委員の皆様から頂戴する御意見を踏まえ、キャンパス整備計画を固めた上で、次回の第4回委員会にて提示させていただきたい。

(委員)

- キャンパス整備のためには土地もたくさん必要ではないか。しかし、キャンパス周辺には狭隘な道路ばかり。メイン道路はどこを考えているのか。

(大槻本部員)

- メインストリートの造成をはじめ、キャンパス整備計画の実現のためには、成美学園が所有する土地の活用を視野に入れ、「知の拠点」の実現に向けてどのような中身を作っていくかを検討しなければならない。
- データサイエンスなどのビックデータを活用する情報系学部であれば大きな施設は不要であるため、施設投資は抑えられるが、財源については市全体で検討したい。

(委員)

- 先日、一部の新聞で、旧成美大学短期大学部校舎であった3号館をNPO法人が活用されると報道されたが、キャンパス整備計画に3号館の活用を位置づけて問題ないか。

(大槻本部員)

- 成美学園には、平成30年1月から3月末までの期間、地域貢献を目的とされているNPO法人「ひゅうまんネット北きんき」様へ貸し出しされていることを確認している。成美学園も本市の「知の拠点」整備構想の動きは御存知である。あくまで建物の維持管理と遊休資産の有効活用・地域貢献のため3号館を運用されているだけであり、「知の拠点」整備構想に影響を与えるものではない。

(委員)

- 新学部の設置に向けて、1号館と3号館を改修することは妥当であると思う。また、3号館の中にラーニング・コモンズの機能を設けることができれば、地域産業との連携も可能。地元企業の職員の研修施設としても活用できるのではないか。
- 一方で、北近畿地域連携センターを活用した地域産業との連携のためにはもう少し議論必要ではないか。例えば、京都市内では、大学の傍に学生と企業が交流する喫茶店「知るカフェ(多くの企業と提携し、スポンサー企業の協力により、ドリンク、Wifiなどのサービスを無料で利用できる大学生限定のカフェ)」が設けられている所があるが、福知山公立大学においても北近畿地域連携センターの中に「知るカフェ」の機能を持たせることができれば、学生と企業との交流の機会が生まれ、インターンシップなど様々な展開が図れるのではないか。

(井口本部員)

- 現在、北近畿地域連携センターの機能拡充を目指している。
- しかし、北近畿地域連携センターの開設時間を延長するとなれば、配置する職員体制を充実させる必要があるとともに、アクセス改善を図る必要がある。
- 3号館に京都工芸繊維大学との文理連携等を進めるためのラーニング・コモンズの機能を備えとすれば、現在改修を予定しているメディアセンターにも同様の機能スペースを設けようとしているため、すみわけが必要。

(委員)

- 地域住民にとっては、まちかどキャンパスのほうが利用しやすいかもしれない。
- 8頁の赤色の線で示されている市道小谷ヶ丘堀山線が整備された場合は、この道路がメインストリートになるのか。

(伊東本部員)

- メインストリートの造成については、住宅街の道路を拡幅する方法と、市道小谷ヶ丘堀山線を整備し、市道荒木神社堀線と接道させる方法の2つあると考えるが、造成、拡幅の問題を考えると、後者のほうが現実的ではないかと検討している。
- 将来的にはバスターミナルの設置なども検討しなければならない。

(委員)

- 情報系学部には、最新のハードウェア、高速デジタル通信回線、また教職員のプレゼンテーション環境の設置が必要。ただし、情報はすぐに陳腐化するため、適切なタイミングでハードウェア等を導入し、更新していく必要がある。
- 情報はスピードが大切である。また、これらの少子化社会を見据え、少しでも子どもを北

近畿地域に留まらせることを考えると、新学部の開設はなるべく早期のほうがいいのではないか。

- 地域産業との連携の中に高校との連携も加えてほしい。また、北近畿地域には京都府立農業大学校もあるため、農業のIT化も考えてほしい。地域全体に競争力を持たせるような観点で地域連携の在り方を検討いただきたい。

(柴田委員長)

- 新学部の開設時期を早めたほうがいいという意見に対して、事務局はどのように考えるか。

(大槻本部員)

- 平成27年3月に策定した『教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想』においては、平成33年度に新学部を開設するという年次計画を示している。また、中期目標においても、第1期中期目標期間中に学部学科の最適化を図るとしている。
- しかし、「情報」を取り巻く状況を考えると、スピードが大切であることは認識しているため、財源等の問題はあがあるが、委員の意見を尊重して開設時期の早期化を検討したい。

(柴田委員長)

- 早急な対応が必要なのは1号館、3号館だけで十分か。

(大槻本部員)

- グランドデザインを描いた上でキャンパス整備を行うことを考えると、拙速に進めてはいけなと認識はしているが、新学部開設までには最低限、1号館の改修並びに3号館の取得が必要であると考えている。

(委員)

- 福知山商工会議所の10の部会の正副部会長を集めて、産学官連携に向けて、平成29年11月22日に福知山市、福知山公立大学と打ち合わせを予定している。
- また、11月28日には、長田野工業団地の企業と一緒に京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパスを視察予定。今後、積極的に産学官連携を深めていきたい。
- 福知山市の住宅家賃は高いと言われているが、通常、不動産業者は、20年程度で元をとれるよう計画を組む。利益が出るのであればいくらでもやりようがある。
- 事務局は「産学官連携」と言われているが、私は「産官学」に「金(金融)」を加えてはどうかと考える。学生等宿舎を設置する際には、金融機関に特別な融資制度を設けてもらえるよう市から働きかけてはどうか。

(伊東副市長)

- 産学官連携の具体性が出てくれば、金融機関を加え、産学官金とすることを検討したい。
- 学生等宿舎については、様々な手法を考えながら検討したい。
- 宿舎については、住宅手当の支給がある教職員のための住宅と、できるだけ賃料を抑える一方で多少部屋が狭くても許容される学生のための住宅の大きく2種類があると考ええる。
- 学生、教職員それぞれのニーズを踏まえて検討していきたい。

(委員)

- 次世代下宿「京都ソリデール」事業は、学生が高齢者住宅に同居するために必要な改修費用も京都府が支援する事業である。福知山市内では1件検討中という話も出てきて

いる。是非活用してほしい。

(井口本部員)

- 産学官金連携については、北近畿地域連携センターが事務局となり、京都工芸繊維大学、兵庫県立大学とともに「北近畿地域連携会議」を平成29年5月に結成した。本会議は、北近畿地域に存立する大学と民間の機関団体が持つ資源・知恵・力を結集する連携協力の仕組みを構築し、民間主導による地域再生を図ることを目的としている。本会議の中核として京都北都信用金庫、但馬信用金庫といった金融機関も入ってもらっており、産学官金連携に取り組んでいる。
- 北近畿地域連携センターの取組みについて、本日同席している本学副学長兼北近畿地域連携センター長の富野から紹介させていただきたい。

(富野副学長)

- 北近畿地域連携センターは、福知山公立大学内にあるが、学部とはまた別の組織である。地域連携のための拠点施設として、企業をはじめとする様々な団体と連携し、地域の生活や産業を育んでいく取組みを進めることを目的としている。
- 平成29年3月に第1期工事が完了し、愛称 Kita-re として本格稼動した。今年度はさらなる機能強化を図るべく、現在、第2期工事に向けて準備を進めている。今年度中に工事予定であり、研修できるスペースを設置予定である。
- 北近畿地域連携会議は、大学と地域との関わりを促進し、地域の資源・知恵・力を集めることにより、民間主導による地域再生を図ることを目的としている。北近畿地域の企業、金融機関、各種団体など50余りの様々な団体で構成された組織であり、2年間のプロジェクトとして、3つの研究テーマに取り組んでいる。
- 1つ目は、高齢者の運転免許証返納者を支援する交通・社会システムの構築と新しい自動運転システム。
- 2つ目は、若者の北近畿地域への定着に向けた新たな仕組みづくり。
- 3つ目は、観光素材・観光人材・社会環境等の整備に向けた政策提言。
- 北近畿地域連携センターはまだまだ規模が小さく、人的整備も必要であることから、現時点ではできることは限定されているが、地域連携、産学官連携を充実させていきたい。

(森迫本部員)

- 本学も北近畿地域連携協議会に参加している。平成30年秋になれば学生が福知山に来るため、より深い連携が可能になる。
- 本学の学生は、卒業後、地元就職したいという声が多い。福知山が大好きという学生もいる。いったん外に出ても、地元就職口さえあれば、就職につながると考える。
- 21世紀の理工学の研究は、今までの延長線上にはないもの。自動運転システム、電気自動車など、様々なことを展開できる可能性があり、それが北近畿地域の産業になればと考えている。

(委員)

- 両大学キャンパスへのアクセスとして、福知山公立大学の裏山を削り、荒木方面に通ずるトンネルを造成すればどうか。財源の問題があると思うが、荒木方面には2車線の道路が整備されているため、住宅街で囲まれたキャンパス周辺でアクセス整備を検討するよりもやりやすいのではないかと。

(伊東本部員)

- 壮大な御提言ではあるが、まずは市道小谷ヶ丘堀山線の整備を優先したい。そうすれば9号線に行くことができるとともに、市道荒木神社堀線とも接道しているため、荒木方面にも通じることが可能。

(委員)

- 体育館や学生クラブ・サークル活動の場所はどうかされる予定なのか。
- 体育館は成美学園体育館を取得予定なのか、それとも新たに建設される予定なのか。
- もし体育館や学生クラブ・サークル室がない状況が続けば、在学生から不満も出てくるだろう。こうしたことが口コミで波及すれば福知山公立大学の学生募集にも影響が生じるのではないか。

(伊東本部員)

- キャンパス整備計画の策定にあたり、どこまで風呂敷を広げられるのか、財源の目処はあるのかなど、しっかりと足元を見ながら進めないと絵に描いた餅になってしまう。
- まずは、従来のキャンパスを1つの土俵として考え、既存施設において使用できるものは活用する。場合によっては、今後、建替えや増築も必要になるかもしれないが、必要な施設機能等について委員の皆様から御意見を賜ったうえで、10年間くらいのスパンで投資計画を立て、優先度の高い施設から整備に取り組んでいきたい。

(井口本部員)

- 本学にはクラブ、サークル活動を行う部屋がほとんどないため、学生クラブ・サークル室は早期対応が必要である。もし、学生クラブ・サークル室を京都工芸繊維大学と一緒に利用できる場所に設けることができれば、学生間交流も盛んになるのではないか。

(委員)

- 体育館よりもトレーニングジムのほうが教職員にとっていいのではないか。コストパフォーマンスの高い施設を設置するほうが効果的ではないかと考える。

(柴田委員長)

- 福知山公立大学にはトレーニングジムスペースはあるのか。

(井口本部員)

- ない。

(委員)

- 新学部の設置のために1号館を改修すること、そして3号館を取得し改修することについて、賛成するとともに優先順位が高いと考える。

(委員)

- 両大学キャンパスへの公共交通アクセス環境の利便性向上に向けて、路線バスについては、学内乗り入れや便数増加等といった記述はあるが、鉄道については具体的記述がない。
- 路線バスは福知山市地域公共交通再編実施計画等で議論されているが、鉄道についてはどのようにお考えか。

(伊東本部員)

- 鉄道のアクセス改善も必要であるが、まずはバス交通を優先して考えたい。
- 北近畿地域にとっての大学を目指しているため、北近畿地域から大学に来ていただける環境を整備することが喫緊の課題であることは認識している。京丹後市の北部からで

あれば鉄道通学しようとする、乗継時間等を含めて2時間程度かかる。さらに料金もかなりかかる。鉄道通学者のアクセス環境を改善しようとするれば、各市町に交通費を助成いただける制度を創設してもらえようをお願いしなければならない。このように様々な課題があるため、鉄道通学者のアクセス改善が必要であることは認識しているが、中長期的に検討せざるを得ないと考えている。

- したがって、まずは学生寮を設置し、学生ができるだけ安い賃料で下宿できる環境を整えたいと検討している。

(森迫本部員)

- 本学の地域創生 Tech Program の定員は、2学年で60人。現在、社会では情報系の強化の必要性が謳われているにもかかわらず、本学は国立大学であることから、他の学部の定員を減らさないと定員増することができないため、情報系学部を持つことが難しい。
- こうした中、福知山公立大学が情報系学部を新設してもらえるのは、本学にとっても大変ありがたく、また「知の拠点」として互いに役割分担できれば色々と面白いことができるのではないかと考えている。本学には自動運転、画像処理、通信系など様々な分野に取り組んでいる教員いるので、「情報」を核として連携を深めることにより様々な展開が可能ではないか。

(委員)

- 先日の台風21号では、福知山から綾部への農道が冠水して通行止めとなった。このように市域をまたぐような情報について、例えば、一括して提供できるようなシステムの構築ができれば、地域住民にとっても喜ばれるのではないか。

(森迫本部員)

- 人口減少社会の中でも地域は広がり継続する。そうした中で地域情報が的確にネットワーク化され簡素化できれば、住みやすい社会になり効果的ではないか。
- 情報系学部の設置に当たっては、単なる情報系学部であると特異性がないため、地域社会と密着する「地域情報学」のような特化した内容のほうがいいのではないか。

(井口本部員)

- 情報系学部には、地域情報の特色を持たせることが重要であると考え。例えば、本学の医療福祉経営学科においては、情報教員と診療情報管理士教員が共同して福知山市と他市の医療状況を比較可能なシステム構築に取り組んでいる。
- このように、地域情報の特色を持たせた情報系学部を練り上げていきたい。また、危機管理に関わる情報システムについても福知山市と一緒に作り上げていきたい。

(委員)

- 他の自治体でもGPSデータと合わせた危機管理情報システムの構築には積極的に取り組まれている。こうした分野の人材についても育成できればいいのではないか。

(大槻本部員)

- 情報は様々な分野との連携が可能であるという利点がある。その分、本市のニーズに合致するよう、
- 的を絞って取り組まなければならない。
- キャンパス整備にあたっては、ランドデザインをしっかりと考えた上で、1号館、3号館を最優先課題として取り組みたい。

(伊東本部員)

- 財源については国、府にも支援をお願いしていきたい。同様に地域にも支援をお願いしていきたい。それこそが「地域のための大学」にもつながる。

## 7 その他

特に意見なし

## 8 閉会

閉会挨拶・・・渡辺市長公室長

以上